

関係を深める領域

看護の対象となる人との幅広いコミュニケーションのあり方を学ぶとともに感性を磨き、自己を理解し他者を理解していくことで、深く人を理解し相手の立場にたち関係を築くことができる人間関係能力を高める

1 年次 前期	人間関係論 I	講師名	宍戸 渉	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	仲間との出会いや、人とかかわりを持つ体験を通して自分自身を見つめ、自分自身の存在について考える。仲間と生活を共にする中で、他者への思いやりや気遣いなど人間関係の基礎を学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	オリエンテーション 1 時間	
2	【学外体験学習】 2 日間 1 日目：7 時間 2 日目：7 時間 ・学外での体験をもとに仲間との出会いや人とかかわりを持つ体験をする ・体験を通して人間関係について感じ、考える ・他者との体験を通して自分自身の存在について考える ・自分と他者との関係から人間関係の基礎を学ぶ	
3		
4		
5		
6		
7		
8	まとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	人とかかわることで相手のことを知り、同時に自分に対しての気づきを得られるようにしましょう。また、体験する機会を活かして学んでいきましょう。積極的なかかわりを期待します。
評価方法	参加状況、姿勢、態度を総合して評価する（詳細は授業時に説明）
テキスト	使用しない
参考文献	
備考	

2 年次 前期	人間関係論Ⅱ	講師名	隠村 美子	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	体験をとおして、自己のありように気づき、ありのままの自分を肯定でき、他者との関係を築いていく手立てを見出す。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	オリエンテーション 1 時間	
2	【学外体験学習】 2 日間 1 日目： 7 時間 2 日目： 7 時間 ・体験を通して人間関係を意識し関係を築いていくことの意味を考える ・自分自身の様々な在り方に気づき、深くつきあってみる。 ・他者の様々な在り方に気づき、深くつきあってみる。	
3		
4		
5		
6		
7		
8	まとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	この人間関係論Ⅱは、体験することによって学習を深めることを目的としています。従って欠席すると体験できません。いつもの自分とは異なった自分を選択することによって自分の輪を広げることを勧めます。すると新たな自分がみえてきます。
評価方法	参加態度およびレポートを総合して評価する（詳細は授業時に説明）
テキスト	必要時提示
参考文献	
備考	

3 年次 前期	人間関係論Ⅲ	講師名	江口 智子	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	体験をとおし、自分自身の思考・感情・行動に気づき、そのことが他者にどのように影響しているかを考える。そこから立場を変換して考え、自分も相手も尊重しながら自己理解・他者理解を深める。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	オリエンテーション：2 時間	
2	【宿泊体験研修】2 泊 3 日	
3	1 日目：8 時間	
4	2 日目：12 時間	
5	3 日目：8 時間	
6	・自分の内面に深く関わりつつ、他者の内面に関わる。	
7	・普段気付かない自分の内面を知る。	
8	同時に、他者の内面を理解する事を試みる。	
9	・普段より深いコミュニケーションにチャレンジする。	
10	(予定として)	
11	・アクティビティと内省	
12	・カードによる対話	
13	・ボードゲームからの気づき	
14		
15	まとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	この人間関係論Ⅲは、体験することによって学習を深めることを目的としています。従って欠席すると体験できません。いつもの自分とは異なった自分を選択することによって自分の輪を広げることを勧めます。すると新たな自分がみえてきます。
評価方法	参加態度およびレポートを総合して評価する（詳細は授業時に説明）
テキスト	必要時提示
参考文献	
備考	

4 年次 後期	人間関係論Ⅳ	講師名	高橋 和子 伊藤 麻希	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	ひと・もの・こととの関わりを通し、自分を見つめ、自分を知る。 さらに、自己開示していくプロセスを通し、ケアすること・ケアされることを経験し、仲間とともに人間と環境のつながり、さらに健康、そして看護と、「人間・環境・健康・看護」を感じ考える。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	オリエンテーション：2 時間	
2	第 2 回～15 回	オリエンテーション内容を十分確認し宿泊体験学習に備えてください
3	【宿泊体験研修】2 泊 3 日	
4	1 日目：11 時間	
5	2 日目：11 時間	
6	3 日目： 6 時間	
7	<セッションの例>	
8	1 自分のからだを感じてみる	
9	2 自然との対話	
10	3 シンプルコンタクト	
11	4 与えること・受け取ること	
12	5 たまご	宿泊体験学習では「～ねばならない」から自分自身を解放し、自分自身をひらいて感じること、気づくことを大切にしましょう
13	6 いのちの旅	
14		
15	まとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	感じること・気づくことを大切にして、体験を通して学んでいきます。
評価方法	参加姿勢およびレポートを総合して評価（詳細は授業時に説明）
テキスト	高橋和子 「からだ 一気づき学びの人間学 -」 晃洋書房
参考文献	藤岡完治編 感性を育てる看護教育とニューカウンセリング 医学書院
備考	

1 年次 前期	英語	講師名	キャロル	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	今まで学習してきた書くことが中心だった基礎英語を軸に、「英語」を使った表現を通して自己表現の幅を広げ、人間関係の基礎である「伝える・受け止める」基本を学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	Know yourself 自分の今の英語を見つめる	
2	Take your first step 初めの一步	
3	Let's start asking question 質問してみる	
4	Let's practice conversation! 会話を練習	*第4回目は、45分
5	Express yourself! 自己表現する	
6	Prepare self-introduction	
7	まとめと評価	
8	Let's introduce yourself! 自己紹介発表	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	1. 授業中わからないことがあったら積極的に先生に質問すること。 2. ペアになつての練習が多いが、必ずしも同じ人と毎回組むわけではないので誰とでも分け隔てなく協力すること。 3. 講義初日に付いた英語名で講義に出席すること。 4. 期末テストは自己紹介を英語で行うこととする。
評価方法	期末テストの自己紹介 30% 授業の出席 20% 授業中の発言・参加 30% 〔授業中の発言・参加については各授業ごとにスターをもらえる。〕 スターが8個で満点。 課題の提出、内容 20%
テキスト	テキストはなし。学生は英語の授業用のノートを用意し、各自メモを取る。提出物はA4の紙に書き、提出時に必ず英語名、日付を記入し提出すること。
参考文献	随時提示
備考	授業中はスマートフォンを辞書の代わりに利用して良いこととする。ただし、辞書以外の目的で使いたい場合には、あらかじめ講師の許可を得ること。無断で使用した場合には、それ以降のスマートフォン持ち込みは禁止とする。

3 年次 全期	看護につながる 英会話	講師名	キャロル	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	基礎英会話の学びをもとに、医療英語および看護場面での英会話について学び、看護場面でのコミュニケーション力の向上を目的とする。英語表現や専門的な語彙を学び、様々な看護場面における英語によるコミュニケーションを学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	看護師としての英会話スキルの基礎	
2	医療用語と基本フレーズの修得	
3	自己紹介と患者への挨拶	
4	日常会話の練習	
5	外国人患者対応のためのコミュニケーション技術	
6	症状や要望の聞き取り方	
7	緊急時の適切な英語表現	
8	病院内での英会話シナリオ	
9	受付、案内、薬局の場面	
10	看護ケアの説明と指示	
11	患者の不安や疑問への対応	
12	タレントショーへ向けた準備	
13	タレントショー リハーサル	
14	まとめと評価	
15	タレントショーにて表現する英語力向上の成果	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	1. 授業中はなるべく日本語を話さないこと。 2. 小グループでの授業形態を取るため、チームワーク・協調性が求められる。 そこで、一人ひとりが自覚を持って授業に参加すること。 3. 一年次に付いた英語名で講義に出席する。 4. 講義のまとめとして、グループで英語でのプレゼンテーションを行います。
評価方法	診療・看護場面のプレゼンテーション、授業態度、出席状況
テキスト	医学・医療系学生のための総合医学英語テキスト Step1：メジカルビュー社
参考文献	随時提示
備考	

1 年次 前期	日本語表現	講師名	益井 明子	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	「言葉を用いて表現する力」は、看護だけでなく他教科においても求められる基本的なスキルである。そこで「日本語表現」では、体験の＜事実＞を正確に文章化し、また、「自己」の感情や考えを「他者」に論理的に伝える表現の基礎力を身につけることを目的とする。さらに、語彙を豊かにすることで表現の応用を学び、実際に活用する力を養うことを到達目標とする。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	「他者」が「自己」とは異なる考えを持つこと	講義に臨む前に、自らが書く文章にどのような「癖」があるのかを客観的に把握しておくこと。
2	＜事実＞を文章化する	第 1 回講義内容（目の前にある＜事実＞を「他者」は「自己」と同じように解釈していない可能性があること）について復習しておくこと。
3	読み手（他者）を意識する必要性	第 2 回講義内容を踏まえ、文章表現の目的や意味、どのように表現すれば伝わりやすいのか、自分なりに考えた上で講義に臨むこと。また講義後は、「伝わりやすい表現」のためには読み手（他者）を意識することが重要であることについて、理解を深めておくこと。
4	「感想文」を書く	提示された課題を読み、「感想文」を書く準備をした上で講義に臨むこと。
5	「説明文」を書く	与えられたテーマに関し、「説明文」を書く準備をした上で講義に臨むこと。また講義後は、「感想文」と「説明文」の違いを正しく理解しておくこと。
6	論理的な文章構成とは	第 7 回講義において「意見文」を書くにあたり、自らの「意見」を支える根拠に説得力をもたせるためには、どのような文章構成にすべきか、理解を深めておくこと。
7	「意見文」を書く	与えられたテーマに関し、「意見文」を書く準備をした上で講義に臨むこと。また、これまで学んできたさまざまな文章形式を意識的に使い分け、実際に活用することができる力をつけるように努めること。
8	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	毎回、さまざまな文章を書きます。ただ書けばよい、というわけではなく、「何を、どのような目的で、どのように書けばよいか」自分の頭で考え、積極的に課題に取り組む必要があります。
評価方法	筆記試験（70%）、出席状況、講義内での課題提出状況・内容（30%）を総合して評価する。
テキスト	テキストは使用せず、毎回プリントを配布する。
参考文献	
備考	

1 年次 前期	コミュニケーションリテラシー I	講師名	廣田早恵美 影山美子 山田真伸	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	円滑な人間関係を築くためのコミュニケーションのあり方や、自己と他者の関係の持ち方の基本を学ぶ。演習を通してコミュニケーションへの理解を深め、他者とのスムーズでホスピタリティが感じられる人間関係を結ぶための基礎を習得する。				

回数	授業計画	授業準備（事前課題）と復習
1	コミュニケーションリテラシー I の概観 ① 授業内容、進め方等のオリエンテーション 日常生活の中のコミュニケーション 看護実践とコミュニケーション	自身のリアルなコミュニケーションと SNS コミュニケーションについて、日頃感じ、考えていることをレポートにまとめ授業に持参する。（事前課題）
2	コミュニケーションリテラシー I の概観② コミュニケーションの意義と種類	
3	コミュニケーションスキル① 積極的傾聴	
4	コミュニケーションスキル② ペーシング	
5	コミュニケーションスキル③ リフレーミング	
6	コミュニケーションスキル④ 承認	
7	言語的コミュニケーション 「伝える」／報告連絡相談	
8	評価	筆記試験に備えて、これまでの配布資料を振り返っておくこと

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	演習を中心にした授業内容です。積極的に授業に参加してください。 日常生活において、様々な世代や立場の方々とのふれあいを意識することを心掛けて下さい。
評価方法	筆記試験：100 点
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 医学書院 廣田早恵美著「クレーム対応に困らないナースの『謝罪力』『交渉術』一対人関係力を高める 7 つのレッスン」メジカルフレンド社
参考文献	金井一薫著「ナイチンゲールの『看護覚え書』イラスト・図解でよくわかる！」西東社
備考	授業には名札を見えやすい位置につけてください。

2 年次 後期	コミュニケーションリテラシーⅡ	講師名	廣田早恵美 影山美子 山田真伸	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	医療現場のコミュニケーションスキル法として有効なコーチングスキルを実践的に学び、実習場面や日常生活での活用を試みる。そして他者と協働するために役立つコミュニケーションアプローチを学習する。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	コミュニケーションリテラシーⅡの概観 授業内容、進め方等のオリエンテーション コミュニケーションの意義と種類 看護実践とコミュニケーション	コミュニケーションリテラシーⅠでの学びを、日常生活や実習で活用していることレポートにまとめ授業に持参する。(事前課題)
2	コーチングエクササイズ① コーチングの基礎知識	
3	コーチングエクササイズ② GROW モデル、質問	
4	コーチングエクササイズ③ コーチングセッション	
5	他者との効果的なコミュニケーション① 論理的思考力	
6	他者との効果的なコミュニケーション② 報告連絡相談／アサーション	
7	他者との効果的なコミュニケーション③ プレゼンテーション	
8	評価	筆記試験に備えて、これまでの配布資料を振り返っておくこと

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	演習を中心にした授業内容です。積極的に授業に参加してください。 日常生活において、様々な世代や立場の方々とのかかわりを意識することを心掛けて下さい。
評価方法	筆記試験：100 点
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 廣田早恵美著「クレーム対応に困らないナースの『謝罪力』『交渉術』一対人関係力を高める7つのレッスン」メジカルフレンド社
参考文献	福嶋隆史著『『ビジネスマンの国語力』が身につく本』大和出版 福嶋隆史著『『本当の国語力』が驚くほど伸びる本』大和出版 金井一薫著「ナイチンゲールの『看護覚え書』イラスト・図解でよくわかる!」西東社
備考	授業には名札を見えやすい位置につけて下さい。

3 年次 後期	手話	講師名	佐野 厚子 原 佐登美	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	聴覚障がい者に対する様々なコミュニケーション方法を学ぶとともに、聴覚障がい者を取り巻く諸問題への関心を深めることを目的する。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	聴覚障がいの基礎知識①	
2	聴覚障がいの基礎知識② 手話① あいさつ、名前の表現	
3	手話② 指文字、数字の表現	
4	手話③ 家族、住所、地名の表現	
5	聴覚障がい者とのコミュニケーション①	
6	聴覚障がい者とのコミュニケーション②	
7	医療に関するコミュニケーションについて	
8	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	一口に「聴覚障がい者」と言っても、聞こえなくなった時期や、環境によってコミュニケーション手段は大きく異なります。手話だけではなく様々なコミュニケーション方法について学ぶことで、聴覚障がい者との関わり方を考える力を身につけてください。
評価方法	出席状況（遅刻厳禁）、授業態度、筆記試験の結果を総合して評価します。 （詳細は授業時に説明）
テキスト	『DVD で楽しく学べるはじめて出会う手話』一般財団法人全日本ろうあ連盟
参考文献	「わたしたちの手話 学習辞典Ⅰ」 一般財団法人 全日本ろうあ連盟
備考	

3 年次 前期	日本の文化と芸術 華道	講師名	今岡 枝美 中村 さく	選択 必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	日本の文化、伝統芸術を学ぶことにより、心のあり方や、生活との関連について考え、価値観・道徳観、もてなしの心を学ぶと共に礼法を身につける。さらに伝統芸術に触れることで心を静め感性を磨く。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	華道の心 ・季節の移り変わりを敏感に感じる ・自然の恵みへの感謝	
2	華道 A 基本形 たての構成	
3	華道 B 基本形 斜めの構成	
4	華道 C 基本形 横の構成	
5	華道 D センターピースの花 色彩構成	
6	華道 E 行事の花 変型花器を使う	
7	華道 F 新しい近代的な生け花 異質素材	
8	まとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	生け花を楽しみ、花や木等に心を託す。 心を鎮め、なおかつ楽しみながら参加して下さい。 授業にあたっての準備、実施、片付けは授業出席者と協力しあって主体的に取り組んで下さい。
評価方法	出席状況、レポート等で総合的に評価する。(詳細は授業時に説明)
テキスト	随時提示
参考文献	花についての立派な文献はたくさんございますのでその都度、持参いたします。
備考	全ての授業で花ばさみ、花袋、お花代を持参して授業に臨むこと。 お花代は業者に直接支払うこと。

3 年次 前期	日本の文化と芸術 書道	講師名	山口 清蘭 古山 草雲	選択 必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	日本の文化、伝統芸術を学ぶことにより、心のあり方や、生活との関連について考え、価値観・道徳観、もてなしの心を学ぶと共に礼法を身につける。さらに伝統芸術に触れることで心を静め感性を磨く。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	書道の心 ・ 書に親しみ、書く楽しみを感じる	
2	書道の基本（道具・姿勢） ・ 書を書くための基本、道具のいろいろ、永字八法	
3	基本の稽古 ・ 点画、臨書（楷書：九成宮醴泉銘）	
4	基本の稽古 ・ 臨書（行書：蘭亭序、草書：十七帖）	
5	基本の稽古 ・ 自分の印を彫る	
6	基本の稽古 ・ いろいろな書体を知る（かな、近代詩文）	
7	基本の稽古 ・ 自分の書をつくる（創作）	
8	まとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	心を鎮め、なおかつ楽しみながら参加してください。 授業にあたっての準備、実施、片付けは授業出席者と協力しあって主体的に取り組んでください。
評価方法	出席状況、レポート等で総合的に評価（詳細は授業時に説明）
テキスト	随時提示
参考文献	随時提示
備考	書道具一式、半紙、墨（墨汁）を持参して授業に臨むこと。

3 年次 前期	日本の文化と芸術 茶道	講師名	石田 宗恵 芳田 宗由 吉川 宗聡	選択 必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	日本の文化、伝統芸術を学ぶことにより、心のあり方や、生活との関連について考え、価値観・道徳観、もてなしの心を学ぶと共に礼法を身につける。さらに伝統芸術に触れることで心を静め感性を磨く。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	茶道を学ぶ皆さんへ 「一期一会」「和敬清寂」 ・立ち居振る舞い（座り方、立ち方、歩き方） ・おじぎの仕方（真、行、草） ・ふすまの開け方、しめ方	
2		
3	茶道の美意識 「わび・さび」 ・席入り、扇子の置き方 ・お菓子のいただき方（主菓子、干菓子） ・お茶のいただき方（薄茶）	
4		
5	茶の歴史 茶と健康 ・割り稽古 帛紗の懐中の仕方 帛紗のつけ方 帛紗のさばき方	
6		
7	茶道の成立 ・棗の清め方 ・茶杓の清め方 ・茶筌通し ・茶巾のたたみ方 ・茶碗の清め方 まとめ	
8		

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	心を鎮め、なおかつ楽しみながら参加して下さい。 授業にあたっての準備、実施、片付けは授業出席者と協力しあって主体的に取り組んで下さい。 その都度、伝えたいことがある場合はつけ加えていきたいと思います。 道具の名称等は、その都度教えます。
評価方法	出席状況、レポート等で総合的に評価（詳細は授業時に説明）
テキスト	随時提示
参考文献	随時提示
備考	全ての授業で、茶道具一式と白靴下、腰ひも、お菓子代を持参して授業に臨むこと。 お菓子代の集金と支払いは学生の代表者がまとめること。